

みなさんこんにちはは日本労働者協同組合
(ワーカーズコープ) 連合会副理事長で
日本社会連帯機構専務理事の藤田徹です



日本労働者協同組合 (ワーカーズ
コープ) 連合会

就労者数 15,600人 (2020年)

事業高 350億円

一般社団法人 日本社会連帯機構

全国で 17支部

団体会員 17団体

個人会員 7000人

社会連帯機構は何故生まれ、何をめざすものか

社会連帯機構は2004年11月、社会連帯委員会として出発した。

私が新しい社会運動と協同労働の協同組合の発展のためにこの組織(社会連帯委員会)が**どうしても必要だ**と考えた理由が2つあった。

1つは協同労働の協同組合の運動、**事業も社会運動の1つであり、運動組織としての原点から乖離すれば衰退する**と考えたこと。

今1つは、世界的にも、日本でも協同組合が私たちの運動の原則としている**「社会変革の立場」「全国的視点に立つ」**というような社会運動の観点が組合員自身のものになっていない傾向にあるのは何故かと思ったことにある。協同組合は運動の理念、目的を達成するために事業、経営が存在するのだが、ともすればこれに巣籠る傾向が強い。

ワーカーズコープの事業・運動は、労働（人間）そのものが中心テーマであり、これは社会的矛盾に真正面から運動として取り組まなければ、事業も衰退してしまう。**社会連帯機構は「地域を舞台に、地域の人々や組織が必要な運動をおこし、発展させる」共同体づくりになるであろう。**



代表理事 永戸祐三

(日本社会連帯機構10周年誌より抜粋)

■みなさんの暮らしと仕事・地域の願いを、協同労働で一緒に実現しませんか

- ・生活の困難や失業の中にあって、相談できる居場所や自分を生かせる仕事がほしい
- ・子ども食堂や居場所づくり、不登校の子どもの学びの場…子どもの未来のために働きたい
- ・人生100歳時代、退職後は地域のために働き、元気な時からつながりを豊かにしたい
- ・ケア労働の社会的な価値を高め、利用者や地域の立場に立って、この仕事を充実させたい
- ・第一次産業や商売、ものづくりなど価値ある仕事を、新たな形で次の世代に継承したい
- ・環境や自然、地域のつながりや文化を大切に、自分らしく働き、暮らしたい若い世代へ…



■「みんなのおうち」の構想



国・自治体・社会福祉協議会

- タブレット等物品購入支援
- 通信費支援
- 補助金などの活用
- 寄付金受付窓口
- 場所の紹介
- 空き家・空き店舗・遊休地等

資金支援



コミュニティカフェ

農福連携・障害者就労



子ども食堂



フードパントリー

連携



団地・自治会・町内会



共同農園

ワーカーズコープ

居場所や活躍の場づくり
(地域連帯ワーカーズ)

SNSを活用した
住民同士の支え合い

みんなのおうち

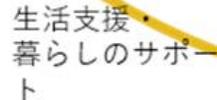
相談機能



第1層：つながり

第2層：居場所

第3層：仕事おこし



生活支援・暮らしのサポート

<第1層>

SNS等で困りごとを共有・発信
自分に出来ることを出来る時に。

<第2層>

地域連帯で居場所や活躍の場づくり

<第3層>

持続可能な仕事おこし…ともに働く
3人集まれば届け出だけで、ワーカーズコープ



子どもの居場所・学童保育・小規模保育



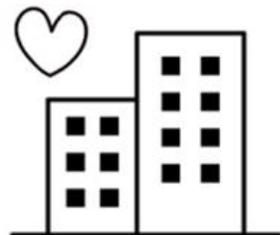
ポールdeウォーク



スマホ・パソコン教室



応援団



企業・商店・生協・農協・信金・ロータリークラブ等

- 就労体験
- 資金支援
- 食材提供
- CSR・ボランティア活動



主体に



地域住民・学生

- 寄付
- ボランティア活動
- 仕事おこし



ワーカーズコープ

- コミュニティ事業の立上げ
- 人材育成
- 運営ノウハウの提供

■コロナ禍での支援－反貧困ネットワーク新型コロナ災害緊急アクションと連携して、「しごと探し・しごとづくり相談交流会」を開催

2020年12月12日、労協連本部で「コロナ禍で仕事と住まいを失う人が増え、生活保護にはつなぐことができるが、孤立して居場所がない、まっとうな仕事で働く場がない」との反貧困ネットワーク事務局長からの相談を受けて、「しごと探し・しごとづくり相談交流会」を共催で行った。相談者が7人参加し、業務紹介と相談に耳を傾けた。



2021年3月6日には第2回、6月6日に第3回を開催。

相談者から「ワーカーズコープをはじめて知った。話ができて良かった」など。ある女性は反貧困ネットワークやワーカーズの居場所事業に週1回、体験就労しながら「今度は助ける側になりたい」と意思表示。「死のうと思っていた」といっていた男性2人は、よってたかってのお節介相談に「世間話含めて、何故か楽しかった。協同労働の話がとても感慨深く、事業所訪問にぜひ行きたいです」と話してくれた。

ワーカーズコープの仲間から「私たちは一人じゃないよと伝えたい」「気軽に遊びに事業所に来てください」「世間話を含めて、居場所的な雰囲気ですら楽しく話げできた」「今回は前回は比べて多くの人げ参加され、一緒に働けたら良いなと思っただ」「みなさんが働いてきた経験やされてきたことが、生かせるような取り組みげできればと」「活気があって楽しくでほっこり感げあって良かった」など。

6月6日に開催した第3回相談交流会では、過去2回相談者として参加され、その後女子会を立ち上げ活動していた方の中にベトナム出身の方がおられ、反貧困ネットとの打ち合わせの際に「相談者が自己紹介の際に『当事者の〇〇です』と言われたが、相談者を主体者にするのが大切』『相談者にちょっと手伝って、運営に参加できないか。ぜひ、ベトナムコーヒーと軽食ををお願いできないか』と持ちかけたところ、『交流会を企画する側にまわりたい』と今回、3人の相談者が中心となり本格的な手作り料理を引き受けていただいた。



また、相談交流会に参加された方が5人ワーカーズコープに就労につながり、7月8日からワーカーズコープ東京中央が主催する「介護職員初任者研修講座」に相談者3人が受講（受講料とテキスト代を一人は生活保護費から、2人の方は、労協連が立ち上げた財団からの助成）することになり、新たな一步を踏み出すことになった。

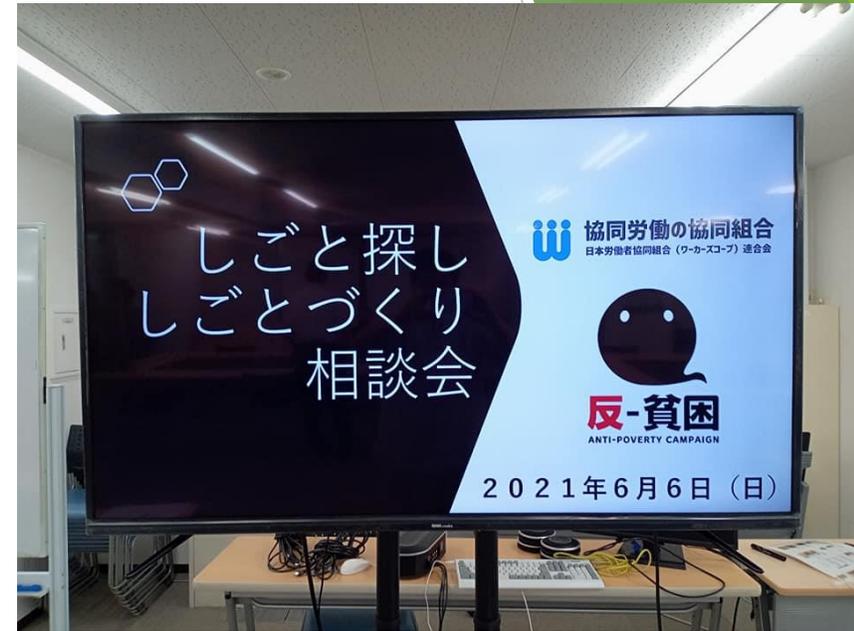
9月20日の第4回では、初任者研修を受講している外国籍の女性の方から「研修を経て資格を取れば、高齢者を支援する仕事に就くことができる。受講料も免除していただき感謝している（財団法人協同労働くらしとしごとからの助成）。交通費の支払いもままならないこともあったが、皆に助けてもらった。働くことは、日本で生活していくために、ひいては日本のためになるようになると思っている。資格を得た後にまずは日本語を拾得しつつ、介護の仕事に就いていきたいと思う」と。また、受講している若者（男性）から「この場所ですれ違うことになり受講につながった。希望は必ず実現すると思う。皆さんも頑張ってもらいたい」と。

刑余者の就労支援に取り組んでいるマザーハウスの五十嵐代表も初めて参加、稲葉奈々子さん（上智大学教授）と共に「共に働く」ことへの呼びかけも。

反貧困ネットワーク事務局長から「生活保護などの制度につなぐ間に、相談者の駆け込み寺がいる。ワーカーズコープのみんなのおうちが、その駆け込み寺の役割を果たしてくれたら、みんなの希望になる。反貧困ネットの活動は首都圏が中心なので、全国にみんなのおうちがあると助かる」と、みんなのおうちに対する期待も語っていただいた。

コロナ禍による貧困や孤立などの困難が進行する中で、人間らしく働きたいという人々の願いや思いに応える取り組みとして相談交流会を各地に広げていくこと。また、労協法を生かして当事者が主体者として立ち上がる契機となる協同労働のネットワークを、各地につくっていくことが求められている。

第5回は、12月に開催した。



「自分らしく働く」 しごと探しを相談

「協同労働」紹介豊島で交流会

新型コロナウイルス感染拡大の影響で仕事を失う人が増加する中、働く人が自ら出資し、運営に携わる「協同労働」ができる職場を紹介したり、当事者同士のつながりをつくったりする「しごと探し・しごとづくり相談交流会」が六日、豊島区内で開かれた。協同労働は自分らしく働く方法として注目され、根拠法の労働者協同組合法が昨年十

二月に可決、成立。二年以内の施行を目指している。交流会は困窮者支援団体の「反貧困ネットワーク」と「新型コロナ災害緊急アクション」、日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）が共催し、昨年十二月に続き二回目。生活保護を利用する人や、失業した外国人など十四人が参加した。会場には地域別にブースが設けられ、各担当者が



協同労働の仕事を紹介したり、相談に乗ったりする交流会＝豊島区で

介護や清掃、子ども関連施設の職員といった仕事内容を説明していた。

参加者で、生活保護を利用する新宿区の男性（四七

は、職場でのパワハラをきっかけにうつ病になり、六年前に失業。一日寝て過ごすだけの日もあり、社会との隔絶を感じたこともあつ

た。「上下関係なく平等に働ける協同労働に魅力を感じた。仕事がなかなか見つからず焦っていたが、放課後デイサービスの仕事に興味を持った」と期待した。

コロナ禍で住まいや仕事を失った人への支援活動を続ける反貧困ネットワークの瀬戸大作事務局長は、協同労働について「精神疾患や引きこもりの経験などがあったても、安心して働ける。当事者が孤立せず社会との関わりを持てるよう、就労をケアしたい」と話した。

会場には、当事者らが交流できるコーナーも用意された。交流会は今後も継続的に開催される。

（中村真暁）

反貧困ネットワークと連携して開催している「しごと探し・しごとづくり相談交流会」
東京新聞2021年3月10日

仕事・人とのつながり 取り戻す一歩を

コロナ禍のなかで仕事や住まいを失い、所持金も底をついて支援団体に送ったSOSメール。生活保護の利用で窮地を脱しても、それで終わり、というわけではない。再び人とつながり、働く場に戻る。その一歩を踏み出すための模索が続いている。

支援団体が相談交流会

困窮者の孤立を防ぐために何ができるのか。昨年12月に初めて開催されたのが「しごと探し・しごとづくり相談交流会」だ。呼びかけたのは、反貧困ネットワーク事務局長の瀬戸大作さん。諸団体が連携して緊急支援に取り組み「新型コロナウイルス緊急アクション」の中心メンバーだ。「生活保護を申請してアパートに入居しても、その後が難しい。仕事が見つからず、孤立を深めて連絡がとれなくなってしまう人もいます」。継続的な相談・交流の取り組みが求められる現場の実情を、瀬戸さんはそう説明する。相談交流会は、反貧困ネットワークと緊急アクションに加え、

ワーカーズコープが共催する。ワーカーズコープは、働く人が地域に役立つ仕事を自分たちでつくることを目指す協同組合だ。9月までに4回実施された。会場は東京都豊島区のワーカーズコープの会議室。緊急支援などでつながりができた当事者に個別に声をかけた。外国人を含め、毎回十数人が参加している。「二度は死んでもいいと思った。脳梗塞の後遺症で手のしびれがあるが、できる仕事があれば、ゼロになった気分です。やってみたい」

6月の相談交流会に参加した40代男性は、そう言った。コロナ禍で昨年12月に建築関係の仕事がなくなり、寮を追

われた。それから半年近く、インターネットカフェと路上を行き来する日々だった。ベンチで寝ていて荷物を奪われたり、一睡もできず夜通し歩き続けたりした日も。5月下旬に緊急アクションにSOSメールをして生活保護申請、入居するアパートも決まったという。

相談交流会には毎回、ワーカーズコープの東京・千葉など首都圏にある事業所のメンバーが数多く参加した。

学童クラブなどの子育て支援、高齢者・障害者支援、公共施設の清掃など各地で取り組む仕事を紹介。地域ごとにテーブルを設置、個別に参加者の相談に応じた。言葉が不自由で仕事が見つからないという外国人女性には、食料支援のフードパントリーなどの情報も伝えた。

倉庫作業などの仕事を説明した千葉県内の事業所の所長(49)は「私自身、126社に応募して6社しか面接できなかった職探しの経験がある。『自分は誰にも必要とされていないのでは』と心細く、不安になる気持ちにはわかる」と話した。

これまでの相談交流会で、少なくとも5人が働く場を見つけたことができたという。瀬戸さんは「外国人を含めて当事者をひとりぼっちにさせない、連絡をとりあえる関係ができてきたことが、何より大きい。今後も続けます」と話す。



しごと探し・しごとづくり相談交流会で、ワーカーズコープの事業について説明を聞く生活保護利用者の男性(右)。子育て支援の仕事について「視野になかったが、詳しく聞いてみたい」と話していた＝3月、東京都豊島区

朝日新聞
2021年
11月11日

回数	日時	相談者数	備考
第1回	2020年12月12日(土)15時～18時	7人	反貧困ネット、各事業本部+ちば物流紹介
第2回	2021年3月6日(土)15時～18時	14人	反貧困ネット関係、在日外国人の方参加、朝日、東京、日本テレビNewsZERO新聞取材
第3回	2021年6月6日(日)15時～18時	16人	ベトナム料理食交流、相談者5人がワーカーズ内就労へ
第4回	2021年9月20日(日)15時～18時	15人	反貧困ネット千葉、上智大学稲葉さん、マザーハウス五十嵐さん参加、NHK首都圏情報ネタドリ！取材
第5回	2021年12月12日(日)15時～18時	8人	足立区土屋議員、反貧困ネット埼玉参加、終了後クリスマス会開催朝日新聞取材
第6回	2022年3月予定		

第5回

しごと探し・しごとづくり相談交流会



コロナの猛威に明け暮れた2021年がまもなく終わろうとしています。この猛威の中であらゆる困難に生活を脅かされた皆さんとともに年内最後の相談交流会を開催いたします。この一年間をねぎらい合いながら、こんな働き方もある、こんな生き方もあると一緒に考え、互いの信頼を高め合える機会になるよう準備し、皆様の参加をお待ちしています。

日時：2021年12月19日(日) 15時～18時頃

会場：ワーカーズコープ本部 8階会議室

内容：個別就労相談

ワーカーズコープ協同労働の説明

参加者交流会（食べながら自由に話そう）



※高田馬場「ルビー」のミャンマー料理のお弁当を予定しています。
(写真右は店主のチョウチョウソーさん)

主催：反貧困ネットワーク・新型コロナ災害緊急アクション

共催：日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団
（東京統括本部・社連 Tokyo・よいしごとステーション他）
日本労働者協同組合連合会「共にはたらくプロジェクト」
一般社団法人 日本社会連帯機構

問い合わせ：新型コロナ緊急アクション 事務局 瀬戸大作
電話番号 090-1437-3502
メール setodaisaku7@gmail.com

会場案内：豊島区東池袋 1-44-3 池袋 ISP タマビル 8階
ワーカーズコープ東京統括本部
電話番号 03-6907-8035



瀬戸大作さん

外国人の方々の困窮に戸惑い『仮放免』の壁を知る！ 緊急連続学習会を開催！



在日外国人の現実を学ぶ

社会連帯
カレッジ

緊急連続学習会

コロナ禍で在日外国人が抱えている困難と不安
当事者の声を聴き今出来ることを一緒に考えてみませんか？

現状を学ぶ

WEBとリアルの
ハイブリッド形式

解決策を
考える

実践に
つなげる



多くの皆様のご参加をお待ちしております！

2021年9月17日（金）18:30～20:00
第1回 稲葉奈々子 上智大学 総合グローバル学科教授
「在日外国人の現実～同じ人間 普通に働きたい～」

【主催】日本社会連帯機構 社会連帯TOKYO

喫緊の取組み 『東京クルド』 上映+トークセッション

映画の2回上映合計95人参加

高校の教員3名や高校生と親が3組の申し込みをしてきた。

トークセッションには日向監督、出演者のラマザンさん、稲葉奈々子さんが登場！

ワーカーズコープの東京中央事業本部はあっという間に6ヶ国の人たちが所属する職場になった。それぞれの課題はあるが楽しく働き合っていると報告



東京クルド

T O K Y O K U R D S



上映会 +トークセッション

監督：日向史有 ひゅうが・ふみあり
 撮影：松野健行/金子裕司/鈴木亮彦 編集：藤原志 カラーグレーディング：藤山龍太郎 サウンドデザイン：稲子彰 MA：宮本一穂
 協力：日本クルド文化協会 映像提供：#FREELSHIRU 技術協力：104.co Ltd クルド翻訳：チャック・ワックス
 助成：文化庁文化芸術振興補助金（映画創造活動支援事業）独立行政法人日本芸術文化振興会 プロデューサー：教員補/植山英夫/本木教子
 制作：ドキュメンタリージャパン 配給：東風 2021年10月11日

日時：2022年 4月2日(土)

《第1回》10:20~12:00
 《第2回》13:20~15:00
 トークセッション 15:15~17:30

会場：日本労働者協同組合連合会本部8階会議室
 (東京都豊島区東池袋1丁目44-3 池袋ISP タマビル)

料金：社会連帯機構会員 無料 / 非会員 1,000円
 主催：社会連帯 TOKYO

……トークゲスト……





日向史有さん (監督)
 ラマザンさん (出演者)
 稲葉奈々子さん (上智大学教員、移住支援理事)

© 2021 DOCUMENTARY JAPAN INC.

私たちの社会に深く刻み込まれた

差別・迫害の現状に抗うために



2021年3月6日、スリランカ人女性のウイシュマ・サンタマリさんが、名古屋入管において不当な扱いを受けた結果、死亡してしまいました。私たちは折に触れて、海外から受け入れている技能実習生に対する労働環境などをめぐって報道を目にすることはあるものの、この事件を境にして、私たちの日常生活の中で外国人差別がこんなにも横行していたことに気づかされたのではないのでしょうか。

今回上映の『東京クルド』は、故郷での迫害を恐れ、小学生のころに日本にやってきた二人のクルド人青年が「仮放免」という壁に突き当たりながらも夢を持ち、時に挫折を味わいながら歩むさまが描かれています。上映後のトークセッションでは、この作品を制作した監督、登場人物、また支援団体の理事であり研究者でもある皆さんと、私たち自身もこの作品を鑑賞して感じたことを持ち寄り語り合う時間を持つことで、この日本の実情に抗う活動につながるよう開催いたします。どうかご参加ください。

●ゲストプロフィール●



監督
日向史有
ひゅうが ふみあり

1980年東京都生まれ。2006年、ドキュメンタリージャパンに入社。東部圏下でのウクライナで良兵制度に裏切られる若者たちを追った『断は取るべし』(16・NHK BS1)や在日シリア人難民の家族を1年間記録した『となりのシリア人』(16・日本テレビ)を制作。本作『東京クルド』(21)の組織版『TOKYO KURDS』/『東京クルド』(17-20分)で、Tokyo Docs ショートドキュメンタリー・ショーケース(17)優秀賞、Hot Docs カナダ国際ドキュメンタリー映画祭(18)の正式招待作品に選出など。



上智大学教授、移住支援理事
稲葉奈々子
いなば ななこ

社会学者。上智大学教授。野宿者や非正規滞在外国人などマイノリティの承認と再分配をめぐる社会運動をグローバル・リサーチの観点から研究。移住者と連帯する全国ネットワーク運営委員・反貧困ネットワーク理事として、外国人の貧困現場の現場でも活動している。おもな著作に、『新移民と雇い主の交渉』と東京府のエイズ誌『世界』(87号)、「新型コロナウィルス感染拡大と非正規移民の子どもたちの社会的排除」『現代思想』(2021年4月号)など。

ラマザン

『東京クルド』出演者。トルコ南東部で生まれる。2006年10月、9歳で家族と共に来日。母は日本で生まれる。定時制高校を4年で卒業。通訳を目指し、英語の専門学校への進学を希望するが、在留資格を持たないことを理由に、面接や試験を受けることすら学校から断られた。4回の難民申請が却定されないまま暮らしていたが、2021年に在留特別許可が認められた。



参加受付は下記QRコードまたはURLからフォームにて必要事項をご入力ください。
 作品の性質上、上映およびトークセッションのオンライン視聴の取り扱いはありません。

上映会に関するお問い合わせ
 社会連帯 TOKYO 事務局 Email:tukub@roukyou.gr.jp
 Tel.03-6907-8035
 担当：藤野・杉田



http://urx3.nu/Av08